

振動診断の支援事例を紹介します

振動診断を導入し、予防保全に取り組む工場が増えています。

一方で、測定箇所の選定や運用、データ活用の面で困っている工場も多いのが実情です。

測定箇所の選定・リスト作成支援

現場に同行し、設備ごとの測定点を確認。
設備の重要度や振動診断との相性を検討し、測定箇所リストを作成。



測定場所を決めます



測定箇所リストを作ります

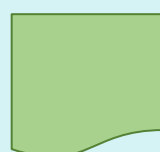
Point

測定箇所の選定には一定の「法則」があり、勘に頼った選定では正しいデータが取得できないため、法則に沿って選定。

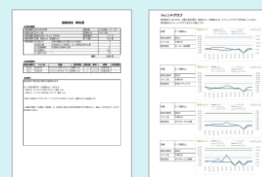
測定データの定期確認・コメント

振動診断の導入後、データの見方や判断基準に迷う工場は少なくない。

報告書の型・管理様式の作成や閾値の設定を支援し、自社内で運用できる体制づくりをサポート。



データを共有いただく



報告書作成
もしくはコメントを返信

Point

本格的な報告書からトレンドのみの簡易な確認まで対応。目指すのは「自社で回せる」状態。

振動診断の基礎教育（1～3.5時間）

メーカーのデモでは扱わない「読み方・活かし方」や振動診断の基礎知識を貴社に訪問して説明。

【研修の目次例】

- 1章 状態監視保全としての振動診断の考え方
- 2章 設備診断で必要となる“振動”の基礎知識
- 3章 振動診断の流れ《測定→診断→対応》
- 4章 簡易診断 or 精密診断 2つの診断手法と使い分け
- 5章 精密診断による故障部位の特定方法



Point

1時間の勉強会から3.5時間の研修まで、内容・時間は調整可能。

訪問による精密診断の実施

貴社工場に訪問し、設備の劣化具合を診断します。
すぐに停止できない大型機器の状況把握に有効です。



- ・現場や仕様書、図面、振動周波数などを確認
- ・設備の損傷部位や劣化具合を判断し、報告書にまとめます

Point

設備の劣化部位や損傷形態を推測し、最適な点検整備のタイミングや方法を調査します。

保全ラボができること

現場の測定支援からデータ活用・教育まで、振動診断を「自社で回せる」仕組みを作ります。

